

報 告 書

未来の柏の図書館について語り合おう！（2）

Noblesse Oblige (NOB)

平成 30（2018）年 8 月 9 日（木）

アカデミック・リソース・ガイド株式会社（ARG）

1. 基本情報

1.1. 開催日時

平成 30 (2018) 年 8 月 9 日 (木) 18:30~20:30

1.2. 会場

Noblesse Oblige (NOB) (柏市東上町 2-28 第一水戸屋ビル 3F)

1.3. 参加者数

参加者 : 7 名

1.4. 事務局

生涯学習課

中山次長、高村課長、橋本副参事、柳川副主幹、川本主任

図書館

小池館長、利光副主幹

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 (ARG)

岡本、鎌倉、宮田

2. プログラム

プログラムは以下の通りです。

時間	内容
18:30~18:35 (05分)	趣旨説明、本日の流れ
18:35~18:45 (10分)	自己紹介
18:45~19:20 (35分)	ワークショップ#1 図書館への期待と課題
19:20~19:30 (10分)	休憩
19:30~20:10 (40分)	ワークショップ#2 どんな図書館だったら行ってみたい ダブルデッキ・ライブラリーフェスでできること

20:10~20:25 (15分)	グループ発表 (3分×2グループ) とまとめ
20:25~20:30 (05分)	閉会の挨拶と事務連絡 (今後の予定等)

3. グループ1

3.1. 図書館への期待

- ・ 今の図書館は柏に必要なのか。そもそものあり方・役割はなんだろうか
- ・ 自動貸出機が欲しい
- ・ 学校への司書配置
- ・ 現状の分館は実質的に分室である。その分身近な存在とも言える
- ・ 開館時間の運用にあたってはボランティアとの連携も欠かせない
- ・ 退職後人材の活用をまず行う
- ・ 大学や高校の人材をもっと活用できる
- ・ 飲食可にしてほしい(常識的な範囲で)
- ・ 社会福祉法人カフェは図書館と同一フロアにあるべき。障害者と健常者が同じところにいることが大事
- ・ 蔵書の整理が必要。スペースを確保できる
- ・ 蔵書の取捨選択をすべき
- ・ 現在の子どもの図書館には良し悪しを感じる。子どもを狭めて考えすぎではないか

3.2. 図書館の課題

- ・ 本が汚い
- ・ 分館の多さの割に分館が小さいという矛盾。集約すべきではないか
- ・ 市民目線が現在の図書館には不足
- ・ 開館時間の設定が働く方々の都合に見合っていない
- ・ 予算不足の問題
- ・ 政策的な投資が欠かせない
- ・ いまの図書館はただ本を並べているだけではないか。窮屈だし、車いすの対面通行すらできない
- ・ (市内在勤者の場合)、ちょっとした調べものは書店(ジュンク堂)で間に合ってしまう

3.3. どんな図書館なら行ってみたい

- ・ 仕事帰りや保育園のお迎え帰りに立ち寄りたい
- ・ 稼ぐ図書館

- ・ 柏でのビジネス、小商い、生業を支える図書館
- ・ 行きたくなる図書館を実現するうえでのネックとしての歩きにくい柏のまちという問題の存在がある。そのうえでたいのことに便利な柏らしい便利な図書館であってほしい
- ・ 空間のつくり方として壁面を書架にし、空間の中央は自由なスペースとしたほうがいい(これからのあり方検討にあたっては)子ども中心で考えるべき
- ・ シェアリングエコノミーの大元としての図書館の可能性
- ・ モノライブラリーや人の図書館という発想もあっていい

3.4. ダブルデッキ・ライブラリーフェスでできること

- ・ サイエンスショーのような取り組みを実現したい



4. グループ2

4.1. 図書館への期待

- ・ 図書館を見ればその土地の文化レベルがわかると言われていたので、柏市の文化レベルを示すものであってほしい
- ・ 世界中の情報とつながる場所
- ・ 誰でも本や情報を探ることができる
- ・ 検索機能の充実
- ・ 蔵書はたっぷりほしい
- ・ 蔵書を手にとって確認できること
- ・ DVD、CD(視覚メディア)が充実していること
- ・ 郷土の歴史について一番詳しい場所
- ・ いろいろな人が集まって何か新しいことが生まれる場所であること
- ・ 信頼できる司書がいつもいる

- ・ 専門性の高い司書の手助けを得られること
- ・ 仕事の課題が解決できる場所(手賀沼の歴史はネットにない)
- ・ 問題解決に役立つこと
- ・ 本や知識を通じて人と人が出会える場所
- ・ いろいろな世代がいろいろな使い方をできる場所
- ・ 赤ちゃんも含め子どもや高齢者が利用できる図書館
- ・ 子どもと親がくつろげる場であること
- ・ すべて、生活し生きるために活用できる場とする
- ・ 多世代交流の場

4.2. 図書館の課題

- ・ 蔵書数(ジャンル)を増やしてほしい。前に住んでいたところと比べて少ない
- ・ 本館の蔵書数も少ないと思うが、それが18ヶ所に分散してしまっている
- ・ 郷土資料へのアクセス。もっとデジタル化が進むとよい
- ・ 書架・棚を見やすくしてほしい
- ・ 展示スペース、展示の仕方にわかりにくいところがある
- ・ レファレンスサービスが利用しにくい。司書さんに声がかけにくい雰囲気がある
- ・ 図書館の存在やサービスについて十分に知られる努力がされていない
- ・ 我孫子、浦安、市川レベルの、ちゃんとした図書館が一つほしい

4.3. どんな図書館なら行ってみたい

- ・ たくさんの蔵書が一覧できることのワクワク感が感じられる図書館
- ・ 数が多いだけでなく、質のいい蔵書があると人は集まる
- ・ ジャンルごとにその分野を得意とする市民がポップを書いて本を紹介している図書館
- ・ 中学生がおすすめる本のコーナーがある図書館(柏高校の図書委員会のコーナーは実績がある)
- ・ 手づくり絵本のイベントや絵本研修を提供している図書館
- ・ ゆったりとブラウジングできる図書館
- ・ 司書の顔が見える図書館
- ・ 司書によるおススメの本コーナーや企画展示をやってほしい
- ・ 直接本を選ぶのではなく、本を選ぶ人を司書が選ぶ図書館
- ・ 問題解決だけでなく、問題提起をする図書館
- ・ 本だけでなく、人も紹介してくれる図書館
- ・ ヒューマンライブラリーがある図書館
- ・ おせっかいな図書館

4.4. ダブルデッキ・ライブラリーフェスでできること

- ・ ダブルデッキに用意した図書館の本を使うと回答できる、柏についてのクイズ大会
- ・ 柏を知るならこの10冊セレクトして企画コーナーをダブルデッキで再現する
- ・ 柏市民が各ジャンルでオススメの3~5冊選んで持ち寄り、その場で交換会をする
- ・ ブクブク交換のような本の交換会
- ・ 柏らしさがわかる、グルメやグッズを集めたセレクトショップを開く



以上